

施策案に対する意見等の概要と意見等に対する市の考え方

番号	意見等の概要	意見等に対する市の考え方
1	①介護用紙おむつ給付事業については、「申請者数は減少傾向にあり、要因は在宅高齢者が減少しているためと考えています。」とあるが、現実的には申請しても断られている。条件が厳しく本当に困っているのに条件が合わないとは断るのは理不尽、納得いかない、本当に困っている現状を直視して、もっと紙おむつの給付を真剣に考える必要があります。 ②ふれあい相談員 施設に通っている人は訪問しないと変更になったが、通っている人ほど相談員の人は訪問すべきです。施設では状態を把握できていないのが現状です。これは国で考える事かもしれませんが、これからますます高齢者が増え、一人暮らしが増える現状、予防介護で健康寿命を延ばす為にも、在宅医療を真剣に考えるべき。 最後は、家庭で死にたい、家族が基本であり、病院の殿様的な医療でなく家にきてくれる在宅医療が本当に患者によりそった医療であると思うし、それを患者が一番望んでいます。コロナ禍でピンチはチャンス。真剣に冷静に考えるチャンスです。また、区長と民生児童委員の連携が高齢者福祉には必要だという事を再確認。各地区できている様で現実的にはできていません。 ③がん検診料は無料にすべき。前橋は無料にして検診率日本一になった。市が負担しても意義があります。	①介護用紙おむつ給付事業は、介護保険を補完するサービスの一つとしてまた、在宅高齢者の在宅支援、要介護者を持つ介護者を支える事業の一つとして実施しております。今後も住民税非課税など一定条件のもと、引き続き各地区民生委員さんのご協力をいただきながら必要な方に対応できるように事業を継続していきたいと考えております。(介護サービス課) ②ふれあい相談員につきましては、訪問対象者としているひとり暮らし高齢者が増加傾向にあり、今後も増え続けることが予想されることから、今年度、訪問対象者を再検討し、より訪問が必要な人を対象とするため、介護サービスを利用して週1回以上介護事業者の訪問がある人は対象としないこととしました。なお、市役所職員が実施しているおとしより見守り隊では、介護サービスの利用とは関係なく、特に見守りが必要なひとり暮らし高齢者に対して月2回の訪問を実施していますので、今後も引き続き実施していきます。 太田市では在宅療養を希望する方が安心して人生の最後まで生活することが出来るように、平成30年4月から太田市在宅医療・介護連携センターを開設し、医師会等と連携して在宅医療・介護連携の推進をしております。今後も在宅療養者の増加が見込まれることから同センターを核として医療・介護関係者の協力を得ながら在宅医療・介護サービスの提供体制の構築を推進するとともに、市民の方に対し理解促進のための啓発を行っていきます。 区長と民生委員の連携につきましては、高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターが、区長・民生委員、関係機関と連携して地域の課題を把握・分析するとともに課題解決に取り組むための地域ケア会議の設置運営を推進していきます。(長寿あんしん課) ③現在太田市では、各種がん検診の自己負担額を、前立腺がん検診は対象の全年齢、結核・肺がん検診は65歳未満、その他のがん検診は70歳未満の方で、500円(ワンコイン)としております。 平成24年度までは、検診料の一割程度を負担していただいておりますが、受診の際の経済的負担を軽減し、受診の促進を図るため、平成25年度から変更し、「ワンコイン検診」として市民の皆様にも定着してきております。 ご提案のように、検診料が無料になることで費用面の心配がなくなり、より気軽に検診が受けられるメリットは大きいと考えられますが、反面、無料でいつでも受けられるから後で受ければいいと、無料になることがかえって検診を受けようという行動に結びつかなくなるというデメリットになることも予想されます。現在のところ自己負担額の変更予定はありませんが、今後検討していきます。(健康づくり課)